

**【表紙】**

**【提出書類】** 四半期報告書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条の4の7第1項

**【提出先】** 関東財務局長

**【提出日】** 平成25年4月26日

**【四半期会計期間】** 第14期第3四半期(自 平成25年1月1日 至 平成25年3月31日)

**【会社名】** 株式会社アイスタイル

**【英訳名】** istyle Inc.

**【代表者の役職氏名】** 代表取締役社長 吉松 徹郎

**【本店の所在の場所】** 東京都港区南青山一丁目26番1号

**【電話番号】** 03(5785)8900

**【事務連絡者氏名】** 取締役コーポレート本部長 菅原 敬

**【最寄りの連絡場所】** 東京都港区南青山一丁目26番1号

**【電話番号】** 03(5785)8900

**【事務連絡者氏名】** 取締役コーポレート本部長 菅原 敬

**【縦覧に供する場所】** 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第13期 第3四半期 連結累計期間	第14期 第3四半期 連結累計期間	第13期
会計期間		自 平成23年7月1日 至 平成24年3月31日	自 平成24年7月1日 至 平成25年3月31日	自 平成23年7月1日 至 平成24年6月30日
売上高	(千円)	3,242,448	4,676,474	4,455,579
経常利益	(千円)	496,413	523,234	611,522
四半期(当期)純利益	(千円)	292,679	303,416	370,326
四半期包括利益又は包括利益	(千円)	292,679	310,906	370,326
純資産額	(千円)	2,155,013	3,782,575	2,263,814
総資産額	(千円)	2,970,472	5,140,756	3,389,698
1株当たり四半期(当期) 純利益金額	(円)	26.17	23.36	32.50
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)	23.48	21.69	29.25
自己資本比率	(%)	72.5	73.0	65.9

回次		第13期 第3四半期 連結会計期間	第14期 第3四半期 連結会計期間
会計期間		自 平成24年1月1日 至 平成24年3月31日	自 平成25年1月1日 至 平成25年3月31日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	5.89	8.50

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 当社は平成24年7月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり四半期(当期)純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額を算定しております。

#### 2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、世界経済の減速による輸出や設備投資の鈍化などを背景に厳しい状況で推移しました。年末には円安や株高が進行し輸出企業を中心に業績の改善が見込まれるとともに、個人消費も回復の兆しが見え始めましたが、景気の先行きは依然として不透明な状況となっております。

そのような状況下で、わが国の日常生活におけるインターネットの影響力は、スマートフォンや多機能端末等の普及が本格化し、より一層強まっております。特に携帯電話でのインターネット利用に関しては、平成25年3月末現在、携帯電話契約数は1億3千6百万件、そのうち高速データ通信が可能な第三代携帯電話契約数は1億3千1百万件に達し、全端末のうち約96%は高速データ通信が可能な状況となっております（電気通信事業者協会調べ）。

スマートフォンに関しては、平成24年10月～12月における国内出荷台数が883万台（前年同期比29.2%増）となり国内携帯電話出荷台数の77.9%となるなど、順調に拡大しております（IDC Japan株式会社調べ）。

このような環境のもと、当第3四半期連結会計期間末現在、「@cosme」の月間ユニークユーザー（UU）数は約750万UUとなりました。

メディア事業においては、@cosmeスマートフォン版の最適化や、クチコミやランキング絞り込み機能の強化を図りました。EC事業・店舗事業においてはメディア事業との連携の強化を、その他事業においては、営業体制の強化や引き続き「@cosme」等との連携を推し進めて行った結果、販売が順調に推移しました。

以上の結果、当社グループの売上高は4,676,474千円（前年同期比44.2%増）となりました。利益面につきましては、売上原価や販売費及び一般管理費の抑制により収益性の向上に努めて参りました結果、営業利益539,415千円（前年同期比9.3%増）、経常利益523,234千円（前年同期比5.4%増）、四半期純利益303,416千円（前年同期比3.7%増）となりました。

各セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

#### メディア事業

当第3四半期連結累計期間においては、ブランディング型広告サービスが過去最多の掲載件数となり、金額ベースでも過去最高を達成するなど、好調に推移いたしました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は2,363,082千円（前年同期比28.2%増）、セグメント利益は337,465千円（前年同期比20.4%減）となりました。

#### EC事業

当第3四半期連結累計期間においては、第2四半期に引き続き、「@cosme」で展開する「おトクde@cosme」からの誘導といったメディア事業との連携や「cosme.com」独自のポイントキャンペーン等が寄与し、「cosme.com」本店の販売が順調に推移いたしました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は426,842千円（前年同期比28.3%増）、セグメント利益は34,923千円（前年同期比31.3%増）となりました。

#### 店舗事業

当第3四半期連結累計期間においては、特に平成24年4月にオープンしたルミネ池袋店、9月にリニューアルオープンしたマルイ上野店の販売が順調に推移いたしました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は1,389,409千円（前年同期比30.3%増）、セグメント利益は67,277千円（前年同期比173.7%増）となりました。

#### その他事業

当第3四半期連結累計期間においては、特にメディア事業より移管したキャリアサービス等の販売が好調に推移しました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は497,139千円、セグメント利益は68,582千円となりました。

なお、その他事業については、前連結会計年度末より当社の連結対象としており前年同四半期との業績比較が不可能な為、これを行っておりません。

## (2) 財政状態の分析

### 資産の部

当第3四半期連結会計期間末における資産の額は、前連結会計年度末に比べ1,751,058千円増加し5,140,756千円となりました。

当第3四半期連結会計期間末における流動資産の額は、前連結会計年度末に比べ982,393千円増加し3,579,726千円となりました。これは主に、現金及び預金が767,831千円増加したこと等によるものであります。

当第3四半期連結会計期間末における固定資産の額は、前連結会計年度末に比べ768,665千円増加し1,561,030千円となりました。これは主に、海外非連結子会社（香港、シンガポール、インドネシア、中国）の設立等による子会社株式の取得、並びに資本提携に伴う投資有価証券の増加があったこと等によるものであります。

### 負債の部

当第3四半期連結会計期間末における負債の額は、前連結会計年度末に比べ232,297千円増加し1,358,181千円となりました。

当第3四半期連結会計期間末における流動負債の額は、前連結会計年度末に比べ29,660千円減少し957,294千円となりました。これは主に、買掛金が93,712千円増加したこと、またポイント引当金が10,527千円増加したものの、未払法人税等が158,450千円減少したこと等によるものであります。

当第3四半期連結会計期間末における固定負債の額は、前連結会計年度末に比べ261,958千円増加し400,886千円となりました。これは主に、銀行借入れを行ったため長期借入金が258,376千円増加したこと等によるものであります。

### 純資産の部

当第3四半期連結会計期間末における純資産の額は、前連結会計年度末に比べ1,518,760千円増加し3,782,575千円となりました。これは主に、増資の実施等による資本金の増加607,464千円、資本剰余金の増加598,378千円、及び四半期純利益303,416千円を計上したことにより伴う利益剰余金の増加等によるものであります。

## (3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

## (4) 研究開発活動

該当事項はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	41,000,000
計	41,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成25年3月31日)	提出日現在発行数(株) (平成25年4月26日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	14,280,200	14,343,000	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は100株であります。
計	14,280,200	14,343,000		

(注) 提出日現在発行数については、新株予約権の行使によって、平成25年4月1日からこの四半期報告書提出日までの間に62,800株増加しております。

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成25年1月1日～ 平成25年3月31日	-	14,280,200	-	1,531,102	-	1,302,773

(注) 平成25年4月1日から平成25年4月26日までの間に、新株予約権の行使により、発行済株式数が62,800株、資本金が6,058千円、資本剰余金が6,052千円増加しております。

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成25年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 188,200		
完全議決権株式(その他)	普通株式 14,090,600	140,906	
単元未満株式	普通株式 1,400		
発行済株式総数	14,280,200		
総株主の議決権		140,906	

【自己株式等】

平成25年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社アイスタイル	東京都港区南青山一丁目 26番1号	188,200		188,200	1.31
計		188,200		188,200	1.31

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成25年1月1日から平成25年3月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成24年7月1日から平成25年3月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】  
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,653,490	2,421,321
受取手形及び売掛金	684,362	891,510
商品	197,812	203,404
その他	71,472	72,877
貸倒引当金	9,804	9,388
流動資産合計	2,597,333	3,579,726
固定資産		
有形固定資産	116,131	117,166
無形固定資産		
のれん	77,100	69,753
ソフトウェア	381,088	409,466
その他	14,920	155,111
無形固定資産合計	473,108	634,331
投資その他の資産	203,125	809,532
固定資産合計	792,364	1,561,030
資産合計	3,389,698	5,140,756
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	132,589	226,301
1年内返済予定の長期借入金	127,060	223,184
未払法人税等	205,884	47,433
賞与引当金	9,649	36,758
ポイント引当金	15,074	25,602
事務所移転費用引当金	-	23,710
その他	496,697	374,304
流動負債合計	986,954	957,294
固定負債		
長期借入金	134,100	392,476
その他	4,828	8,410
固定負債合計	138,928	400,886
負債合計	1,125,883	1,358,181

	前連結会計年度 (平成24年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	923,638	1,531,102
資本剰余金	869,979	1,468,357
利益剰余金	486,485	789,902
自己株式	47,080	37,640
株主資本合計	2,233,022	3,751,722
少数株主持分	30,791	30,852
純資産合計	2,263,814	3,782,575
負債純資産合計	3,389,698	5,140,756

## (2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年7月1日 至平成24年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年7月1日 至平成25年3月31日)
売上高	3,242,448	4,676,474
売上原価	1,081,217	1,560,914
売上総利益	2,161,230	3,115,560
販売費及び一般管理費	1,667,569	2,576,144
営業利益	493,660	539,415
営業外収益		
受取利息	225	352
受取手数料	1,835	2,274
持分法による投資利益	11,875	-
その他	1,224	2,369
営業外収益合計	15,159	4,995
営業外費用		
支払利息	3,173	4,998
株式交付費	9,182	14,972
その他	51	1,206
営業外費用合計	12,407	21,177
経常利益	496,413	523,234
特別損失		
固定資産除却損	1,094	1,291
店舗閉鎖損失	-	6,107
事務所移転費用引当金繰入額	-	23,710
その他	-	1,104
特別損失合計	1,094	32,212
税金等調整前四半期純利益	495,318	491,021
法人税等合計	202,639	180,115
少数株主損益調整前四半期純利益	292,679	310,906
少数株主利益	-	7,489
四半期純利益	292,679	303,416

【四半期連結包括利益計算書】  
【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年7月1日 至平成24年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年7月1日 至平成25年3月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	292,679	310,906
四半期包括利益	292,679	310,906
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	292,679	303,416
少数株主に係る四半期包括利益	-	7,489

【会計方針の変更等】

当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年7月1日 至 平成25年3月31日)
(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更) 当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。この変更による影響は軽微であります。

【注記事項】

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成23年7月1日 至 平成24年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年7月1日 至 平成25年3月31日)
減価償却費	129,534千円	177,865千円
のれんの償却額	-	11,787千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 平成23年7月1日 至 平成24年3月31日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

当社は、平成24年3月8日に東京証券取引所マザーズに上場し、上場にあたり、平成24年3月7日に公募増資による払込みを受けました。この結果、資本金及び資本剰余金がそれぞれ173,880千円増加したこと等により、当第3四半期連結会計期間末において、資本金が923,638千円及び資本剰余金が874,296千円となっております。

当第3四半期連結累計期間(自 平成24年7月1日 至 平成25年3月31日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

第2四半期連結会計期間において公募増資、自己株式の処分等を行いました。この結果、当第3四半期連結累計期間において資本金が607,464千円、資本剰余金が598,378千円増加、自己株式が9,440千円減少し、当第3四半期連結会計期間末時点で資本金が1,531,102千円、資本剰余金1,468,357千円、自己株式37,640千円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成23年7月1日至平成24年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント				調整額 (注)1 (千円)	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2 (千円)
	メディア事業 (千円)	EC事業 (千円)	店舗事業 (千円)	合計 (千円)		
売上高						
外部顧客への売上高	1,843,329	332,691	1,066,427	3,242,448		3,242,448
セグメント間の内 部売上高又は振替高	388	3,511	5,796	9,695	9,695	
計	1,843,717	336,202	1,072,224	3,252,144	9,695	3,242,448
セグメント利益	424,190	26,589	24,576	475,357	18,303	493,660

(注) 1. セグメント利益の調整額 18,303千円は、セグメント間取引消去に伴う調整等であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自平成24年7月1日至平成25年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント					調整額 (注)1 (千円)	四半期連結損益 計算書計上 額(注)2 (千円)
	メディア事 業 (千円)	EC事業 (千円)	店舗事業 (千円)	その他事業 (千円)	合計 (千円)		
売上高							
外部顧客への売上高	2,363,082	426,842	1,389,409	497,139	4,676,474		4,676,474
セグメント間の内 部売上高又は振替高		6,611	11,915	382	18,909	18,909	
計	2,363,082	433,454	1,401,325	497,521	4,695,384	18,909	4,676,474
セグメント利益	337,465	34,923	67,277	68,582	508,248	31,167	539,415

(注) 1. セグメント利益の調整額 31,167千円は、セグメント間取引消去に伴う調整等であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(報告セグメントの変更)

当社は、前連結会計年度末よりその他事業を営む株式会社アイスポットを連結子会社としたことに伴い、前連結会計年度末より「その他事業」を報告セグメントに追加しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年7月1日 至平成24年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年7月1日 至平成25年3月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	26.17円	23.36円
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	292,679	303,416
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	292,679	303,416
普通株式の期中平均株式数(株)	11,185,502	12,987,145
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	23.48円	21.69円
(算定上の基礎)		
四半期純利益調整額(千円)		
普通株式増加数(株)	1,280,480	1,000,313
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含まれなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要		

(注) 当社は、平成24年7月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり四半期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額を算定しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年4月26日

株式会社アイスタイル

取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 吉村 孝郎

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 山本 恭仁子

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社アイスタイルの平成24年7月1日から平成25年6月30日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成25年1月1日から平成25年3月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成24年7月1日から平成25年3月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社アイスタイル及び連結子会社の平成25年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。